

社会の授業づくりの 基本とこれから



白百合女子大学

中田正弘

1. 社会科の授業づくりの基本

社会科の指導原理

問題解決的な
学習過程

調べて考える
学習活動



つかむ

調べる

まとめる

つなぐ

社会的
事象との
出会い

学習問題
の設定

学習計画
の作成

学習問題
の解決

社会とのかかわりを
考える

①

②

③

④

⑤

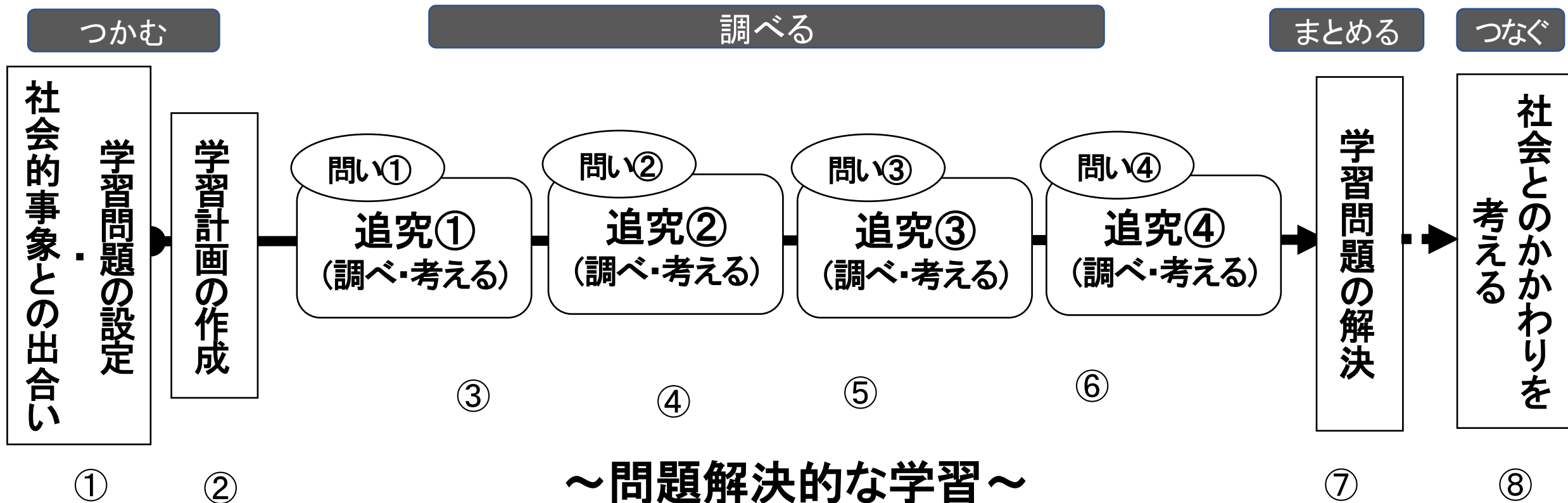
⑥

⑦

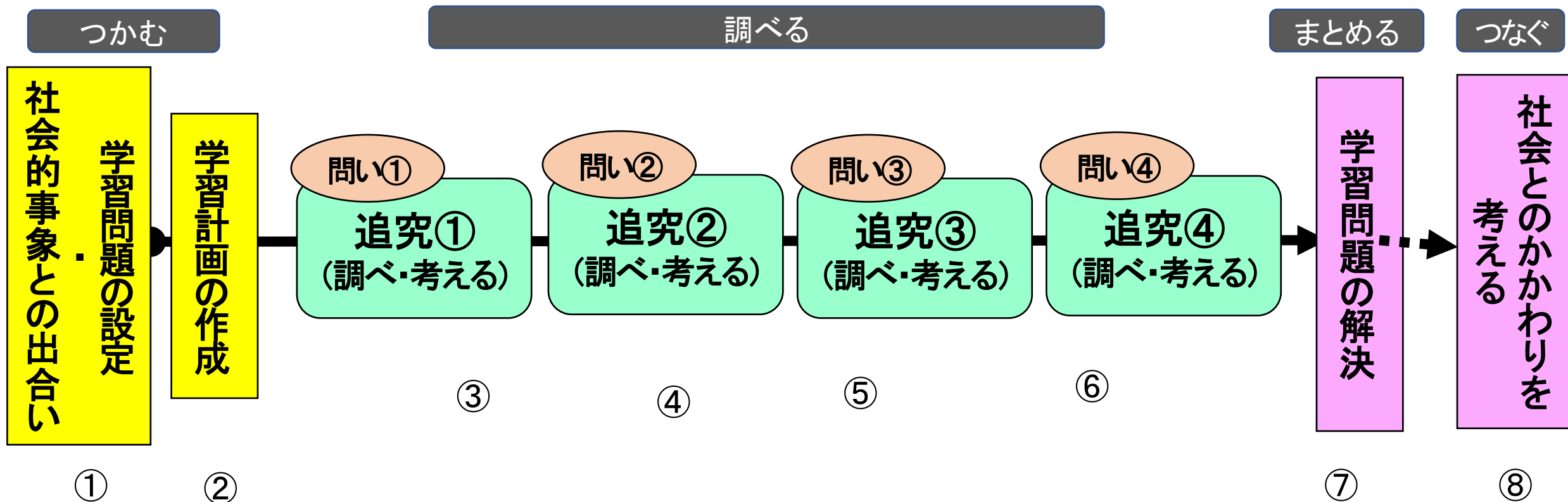
⑧

～問題解決的な学習～





- 単元などにおける学習問題を設定し,
- その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ,
- 社会的事象の特色や相互の関連, 意味を考えたり,
- 社会への関わり方を選択・判断したりして表現し,
- 社会生活について理解したり,
- 社会への関心を高めたりする学習などを指している。(2017COS解説)



どのように単元を貫く
学習問題の設定し、
学習計画を立てるか

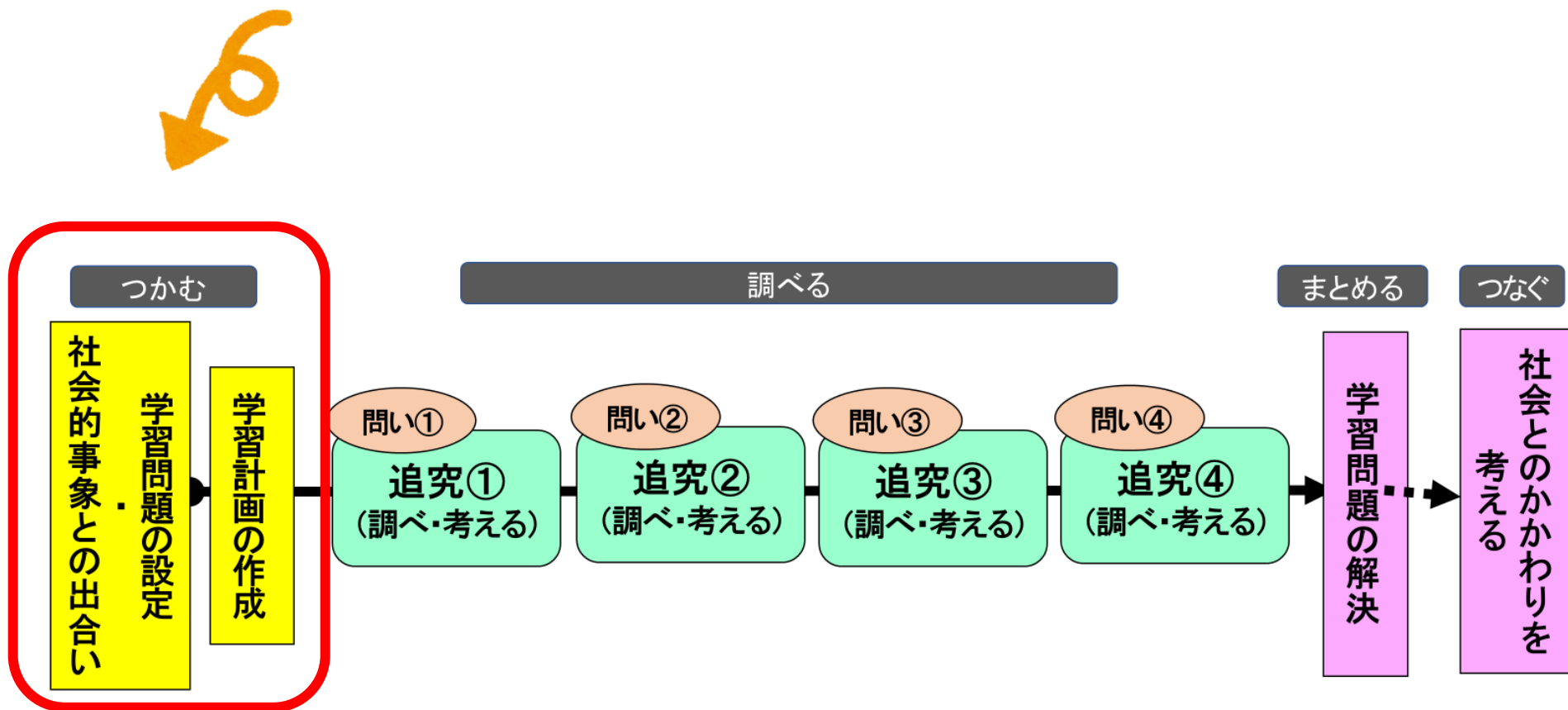


調べて、考える深まりの
ある1時間の授業をどの
ように構想し実践するか



どのように単元のまとめを
行い、社会とのかかわりを
考える学習につなげるか

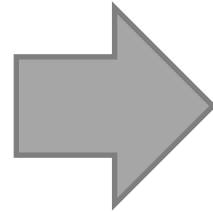
(1) 単元の学習問題・学習計画を作る



学習問題や学習計画を作る場面では、 子供たちの「疑問」と「予想」を区別するのがコツ

出合いの社会的事象に対する

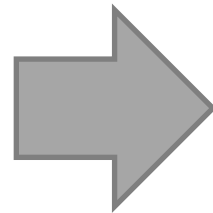
疑問の表明・集約は



「学習問題」になる

学習問題に対する

予想の整理・分類は



「学習計画」になる

そして「調べたいこと」ではなく「調べるべきこと」を大切にする。

学習問題づくり、教師のスキルとして、この2つの方法を使いこなしたい

単元の導入で学習問題をつくるには

必須条件

社会的事象に出合う

A

1つの事象(資料)そのものにじっくりかわる

B

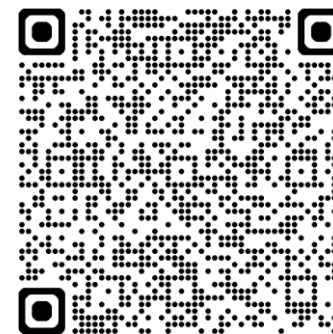
“比較”などの手法を取り入れる (最初の資料に+1)

1枚の資料を基に、疑問や驚きを言葉にする

画像で紹介します

大芝居繁栄之図(浮世絵) 歌川豊国(三代)画 安政6年(1859)

東京都立博物館 大江戸データベース



A

1つの事象(資料)そのものにじっくりかかる

基本的な事実の獲得

驚き・疑問の表明と集約

学習問題

画像で紹介します

“比較”などの手法を
取り入れる（最初の
資料に+1）

「戦国の世から天下統一へ」

長篠の戦いを調べ、時代のイメージを広げるとともに、100年後はどうなるのだろう？という投げかけで右の図を示します。



子供たちは、戦いの目的や戦いが多い場所などに茶目するとともに、右の資料からは、なぜ減った？誰が活躍した？という疑問の意識を高めていきます。



【学習問題】

なぜ戦いがあり、その戦いは人々のくらしや政治にどんな影響があったのか。また戦いはなぜ減ったのか？

「学習問題」を立てていくプロセス

単元導入での
出合いの社会的事象

基本的な事実
の確認

自分ともつながりのある社会・歴
史の出来事に対する驚きや関心

A じっくり見る
B 比較して見る

感想を含めた初期
的な驚きや関心

子供はそれぞれ
にこだわりをもつ
(持たせたい)。

集約して「学習問題」へ

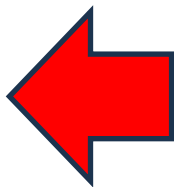
学習問題は、

- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考え、
- その解決が単元の目標の実現につながる表現がいいと思います。

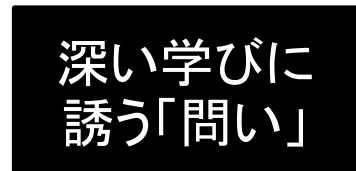
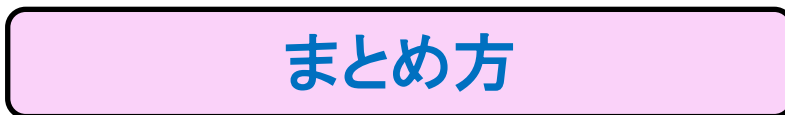
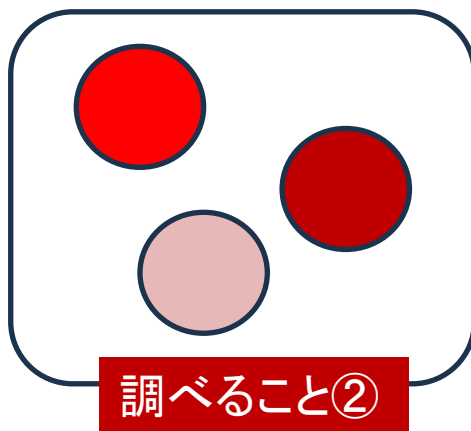
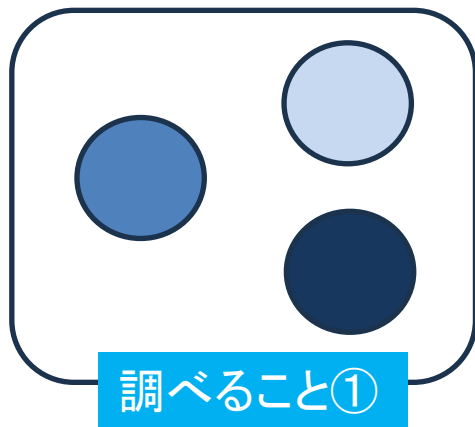
したがって、

- なぜ(Why)
- どのように(How)
- どのような(What kind of)

これらの表現を工夫して使うのがよいと思います。



学習問題に対して予想し、調べる
必要がることを分類・整理していく



子供はそれぞれ
にこだわりをも
つ(持たせたい)
。



学習問題に対する予想から、調べることを見出していく活動は、子供と教師で行うが、最終的な問いの表現は、教師がつくるべき…と考えている。

- 「〇〇を調べよう」という問い+授業中盤での教師の思考発問というスタイルは、いつも一斉に学習を進めることを前提にしている。
- **もし**、児童が「主体的に」学習に取り組むような授業を指向するなら、「本時の問い」そのものを、調べ、考え、話し合うことを求めるような表現にすることも考える必要がある。

「問い」を持つということ

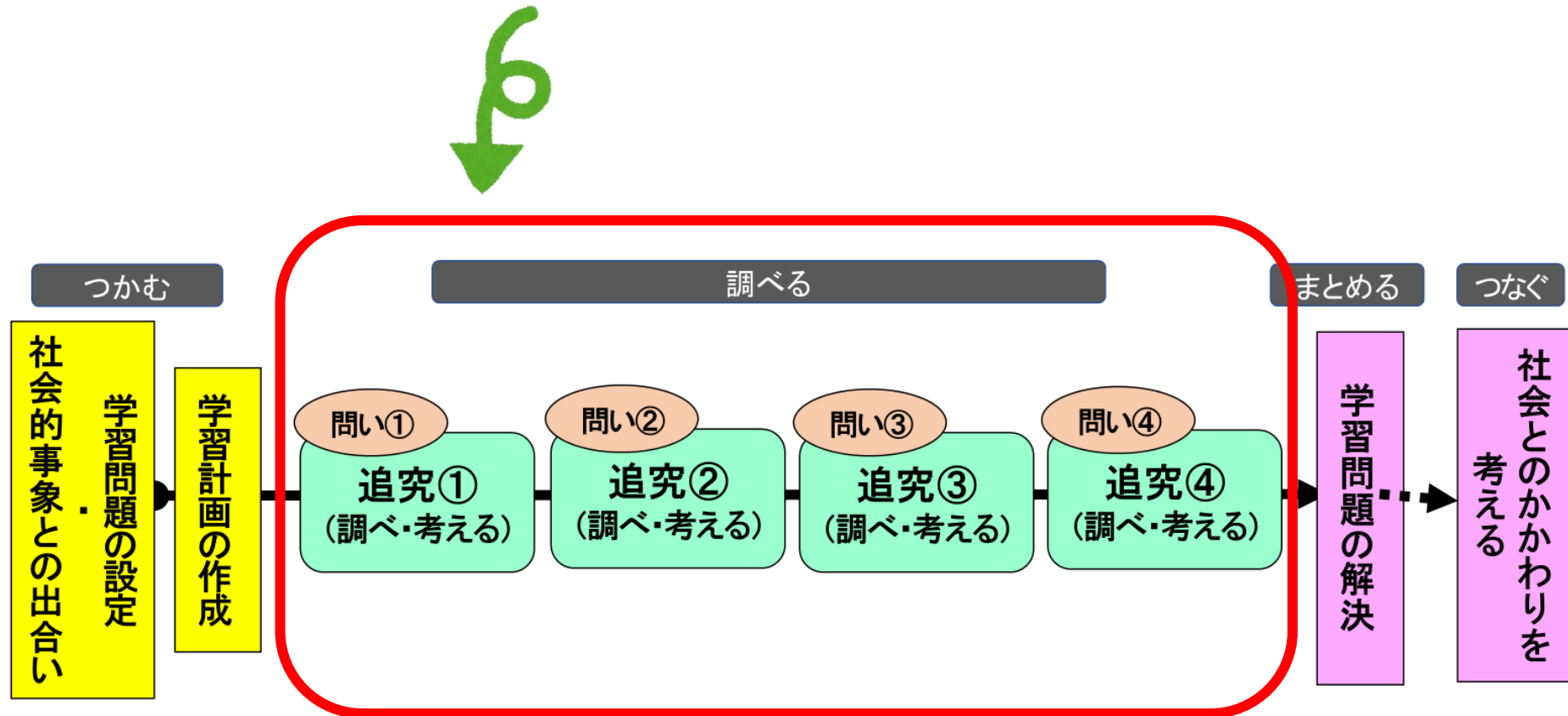
大切にしたいこと！

問いの基本的性質

- (1) 問いの設定によって、導かれる答えは変わりうる
- (2) 問いは、思考と感情を刺激する
- (3) 問いは集団のコミュニケーションを誘発する
- (4) 対話を通して問いに向き合う過程で、個人の認識は内省される

学習問題の解決を目指し

(2) 調べ・考え・話し合う



つかむ

調べる

まとめる

つなぐ

学習問題

火事から人々の暮らしを守るために、誰がどのような働きをしているのだろう。

①

②

問い①

消防署の人たちはどのような取り組みをしているのだろう。

③

問い②

火事が起きた時の連絡体制はどのようなになっているのだろう。

④

問い③

地域にはどのような消防施設が整えられているのだろう。

⑤

問い④

私たちの町ではどのような取り組みがあるのだろうか。

⑥

学習問題の解決

⑦

社会とのかかわりを考える

⑧

単元を貫く「学習問題」

本時の問い①

本時の問い②

本時の問い③

本時の問い④

単元のまとめ

出会いの社会的事象から、驚きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定します。

「学習問題」を解決するために、調べ考える必要があることを検討(予想)します。ここでは「本時の問い」と呼ぶことにします。これは、その時間の「めあて」に該当します。

単元のまとめの段階では、4つの「本時の問い」を基に調べ考えたことを整理し、単元の「学習問題」の解決を図ります。

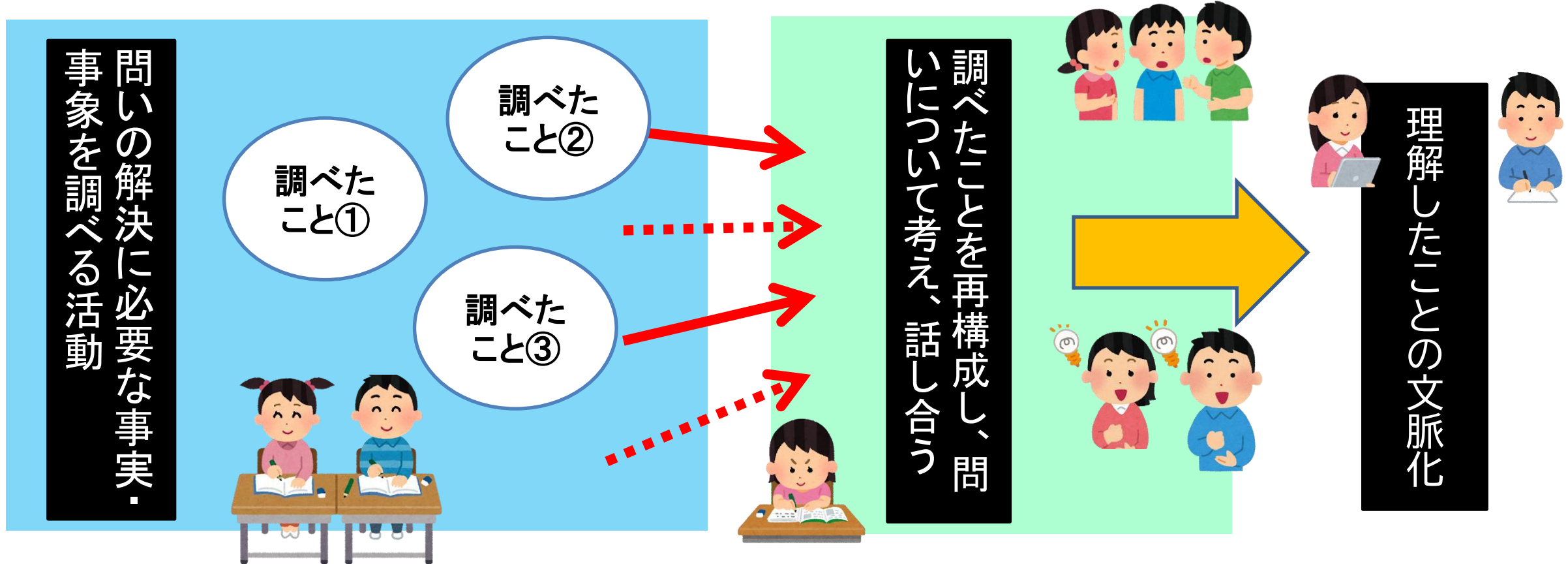
子供たちの1時間の学びのプロセス(例)

本時の問
いの把握
(=めあて)

調べる

考え話し合う

まとめる



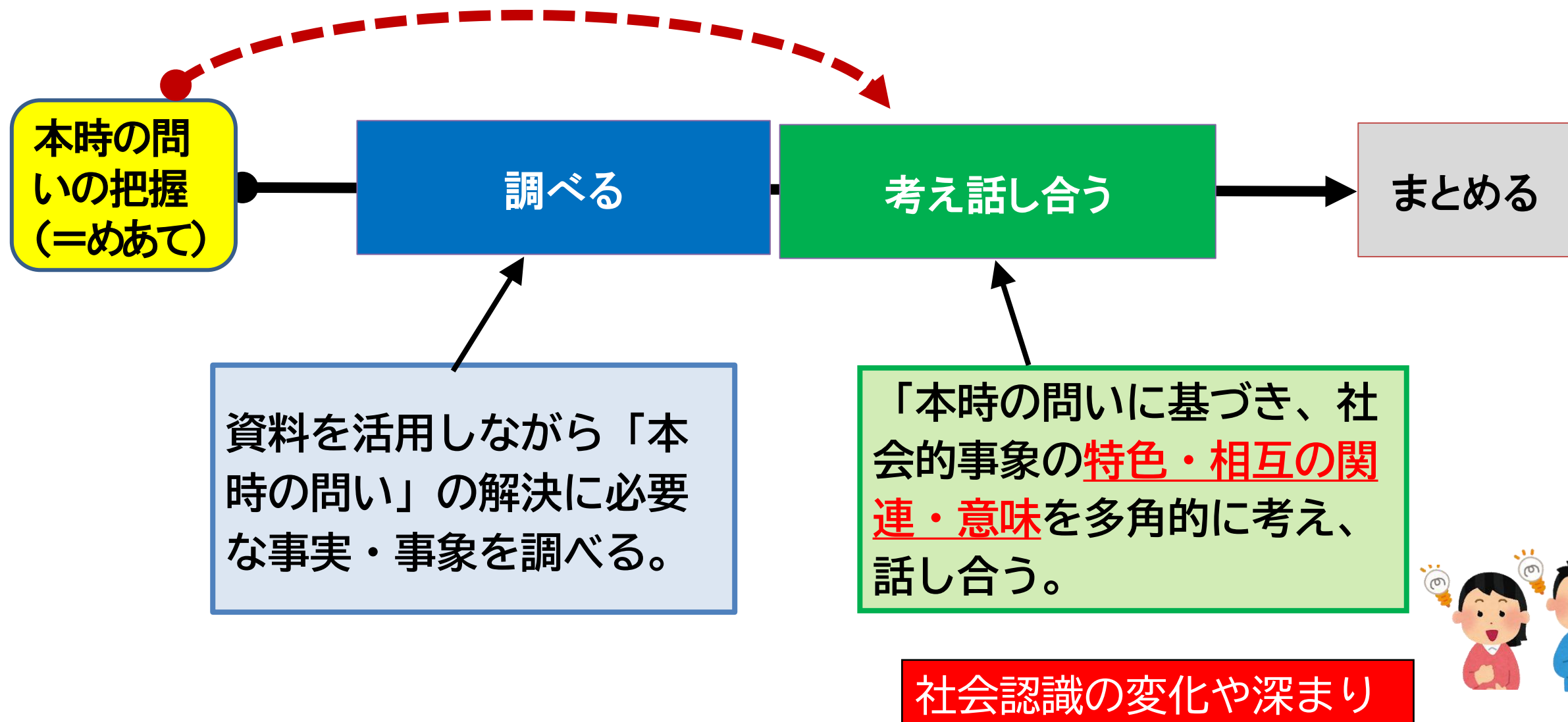
情報を収集する技能、読み取る技能、まとめる技能

調べて獲得した事実(=根拠)

思考活動

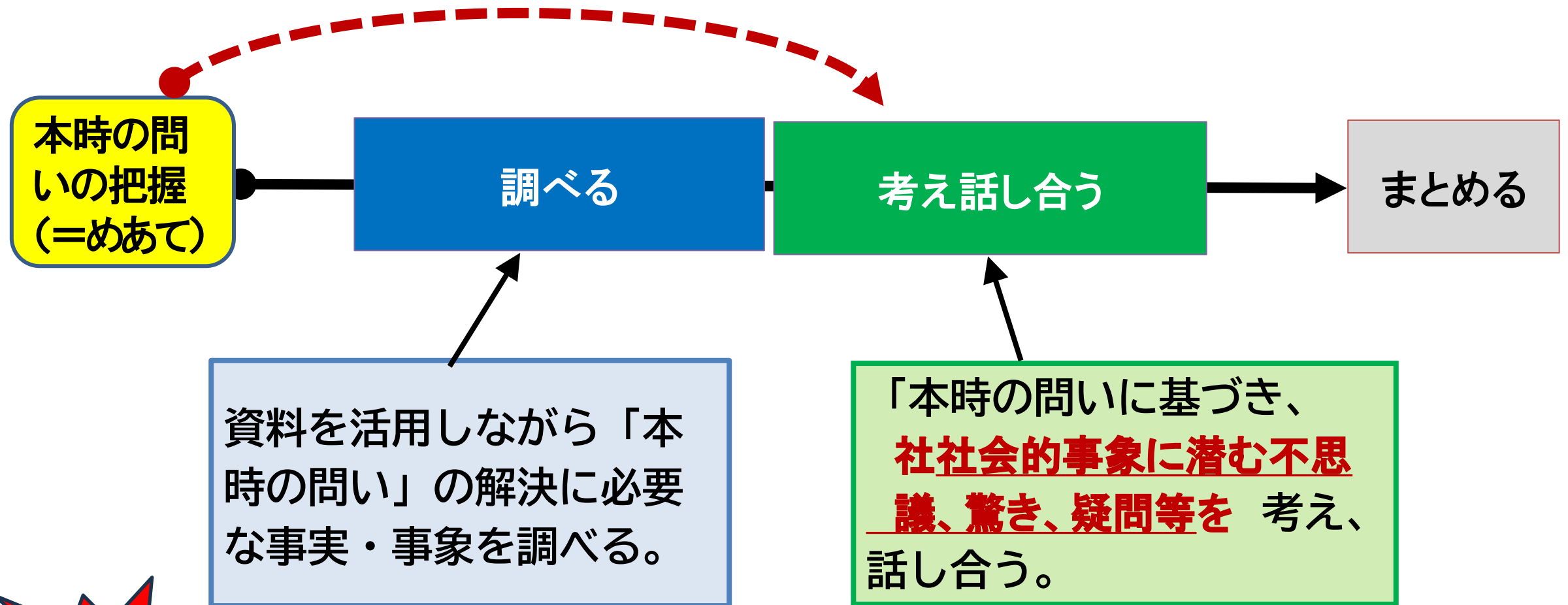
認識の変化、形成

子供たちの1時間の学びのプロセス(例)



つまりそういうことかあ！

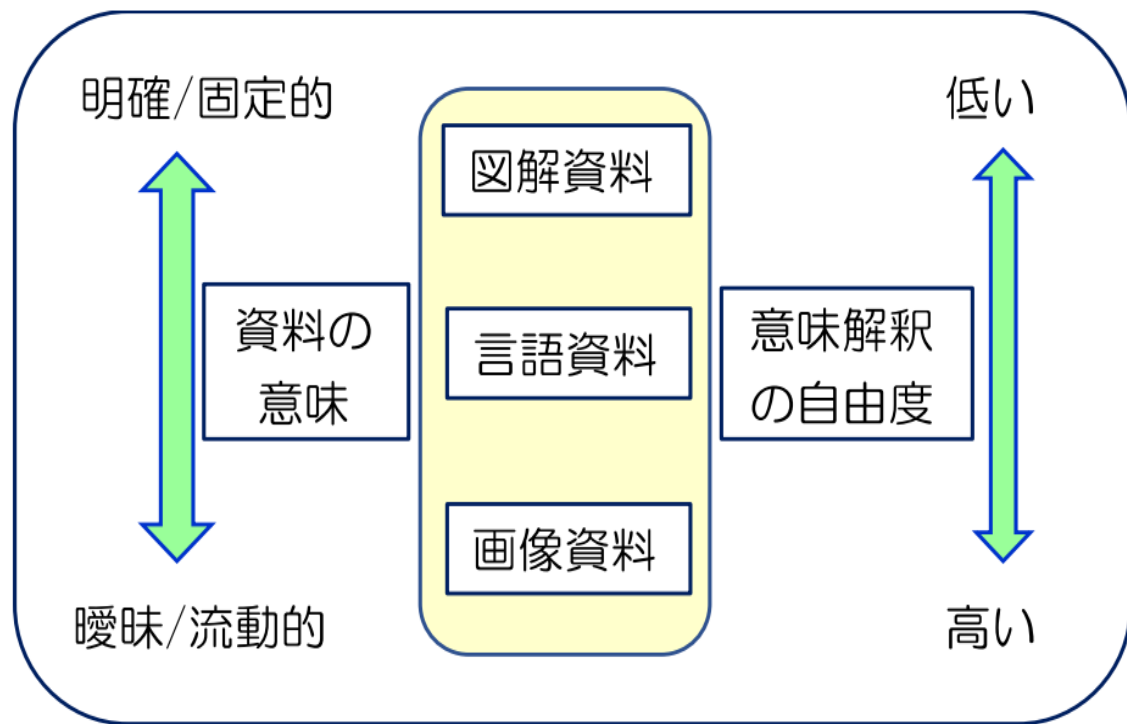
子供たちの1時間の学びのプロセス(例)



学習問題

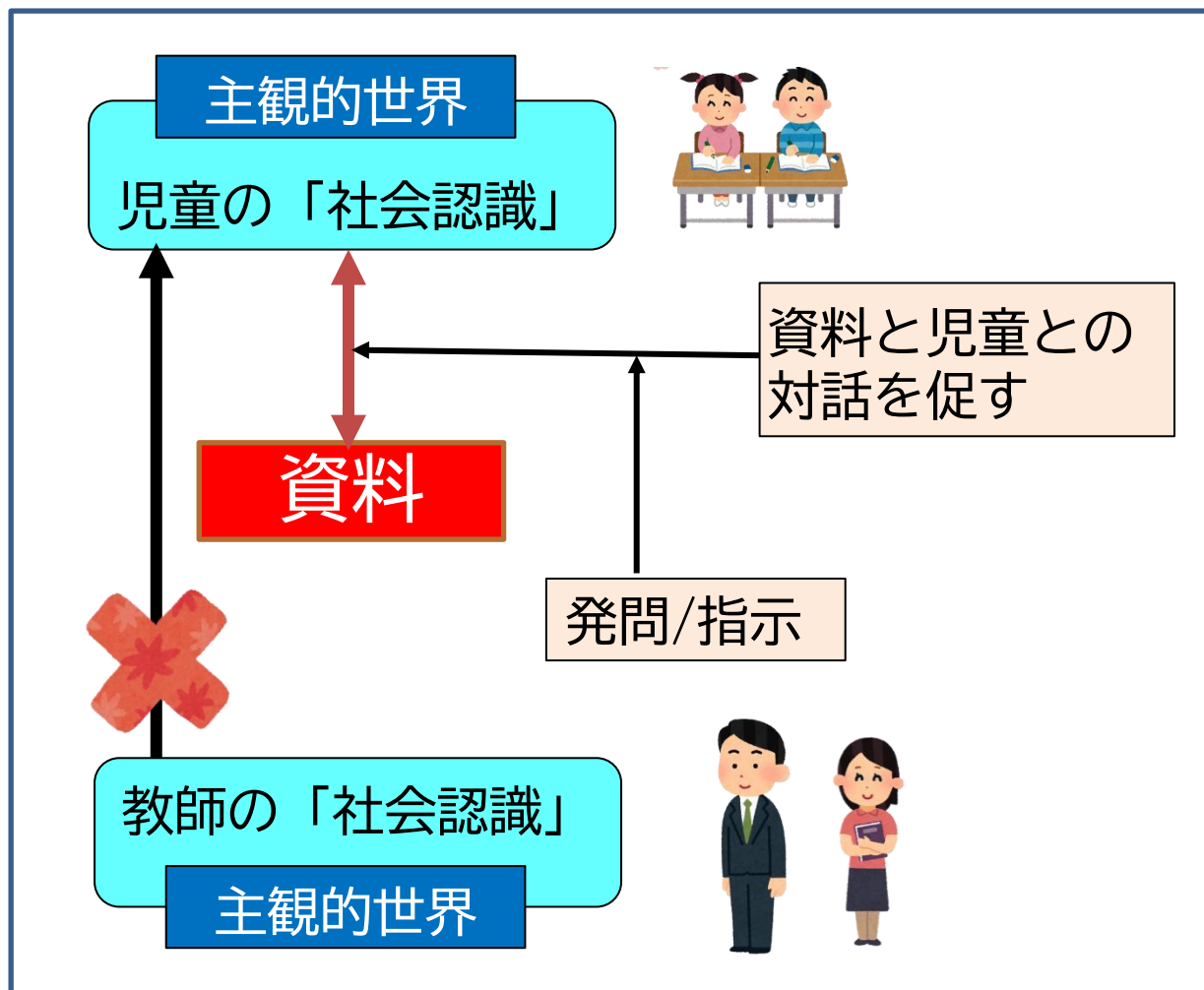
「問い」の作り方によって結果は違ってくる！

資料を使って調べるということ



資料の特性を踏まえた利用の方法（溝口）

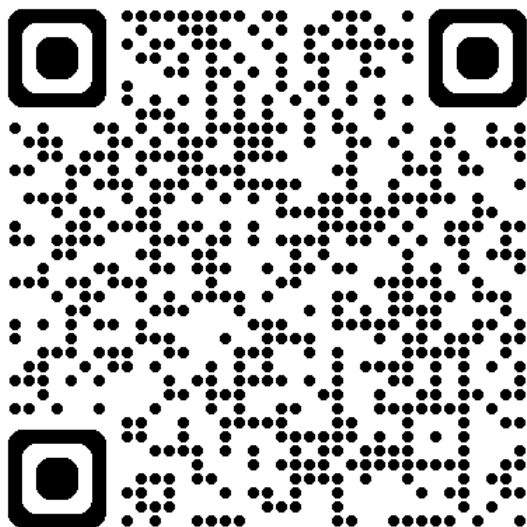
キーワードは、**実証性、客観性、具体性**



社会科授業における資料の位置（溝口）

デジタル学習基盤を 活用した学習の充実

社会・地理歴史・公民WG取りまとめ(案)
令和8年8月4日



- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究・解決する活動」において、学習の質の高まりを促進するために必要な基盤として位置付け、以下の学習を踏まえて見直す。

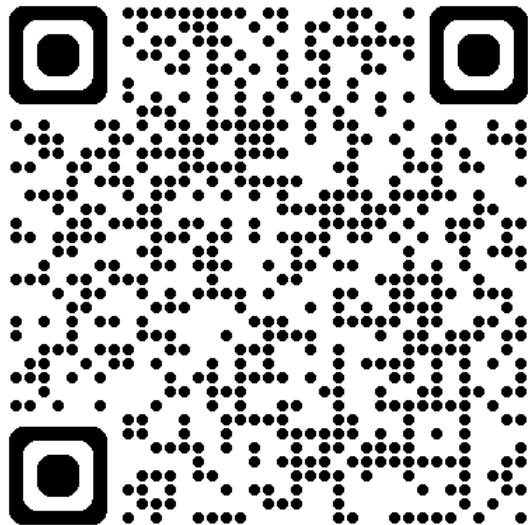
- a課題把握: 社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
- b課題追究: 適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等グループ内での活発な議論のための資料の共有等
- c課題解決: まとめレポートの作成や発表・共有等

- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

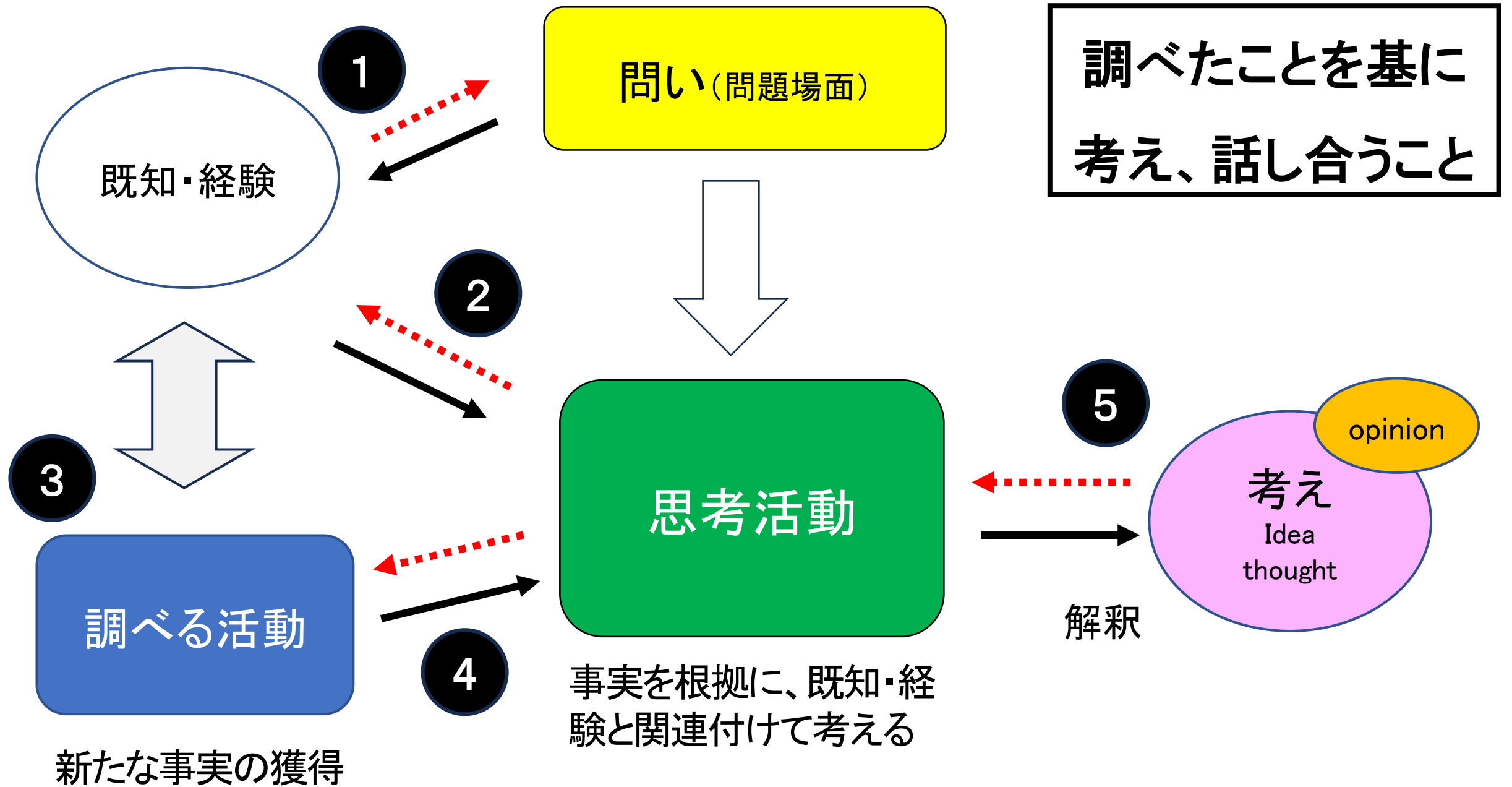
AI活用について の考え方

社会・地理歴史・公民WG
取りまとめ(案)

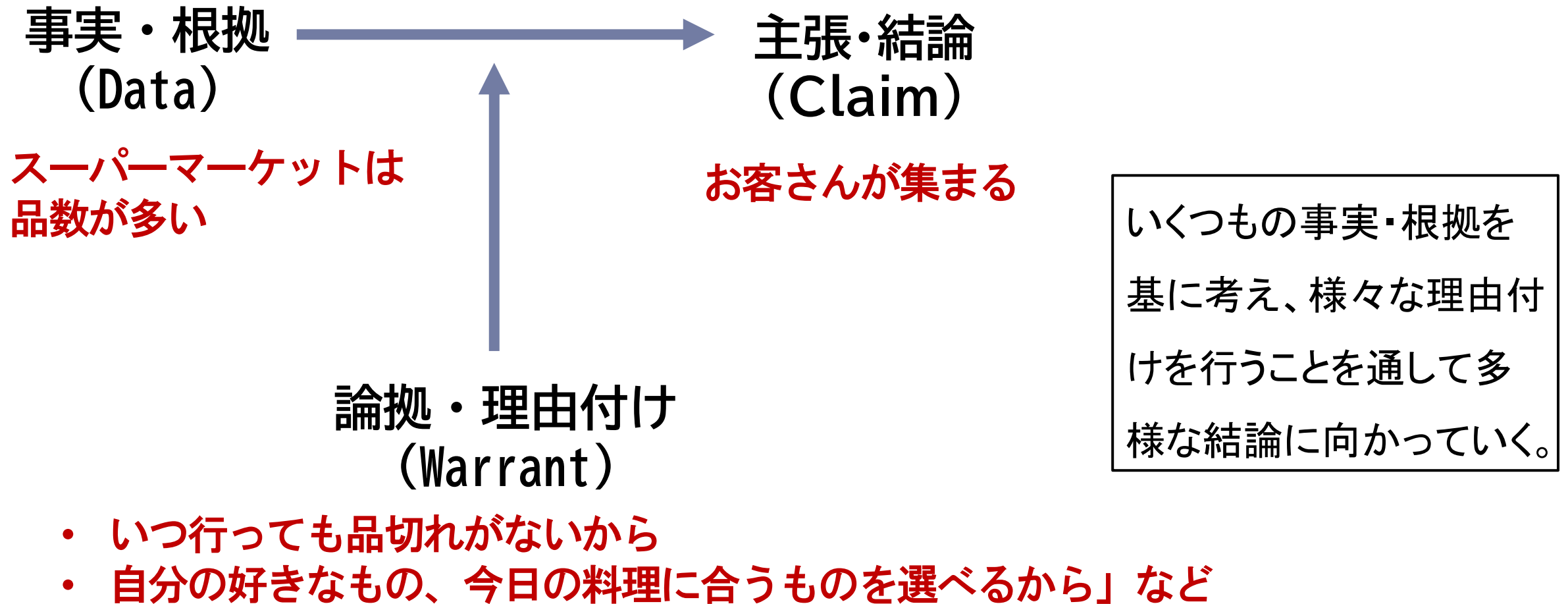
令和8年8月4日



- 社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的な考え方とする。
- 具体的には、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経していない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題であり、例えば、口頭試問の要素を取り入れる、GIGA端末のアンケートソフトのテストモードを活用して、ブラウザ閲覧や活用ができない環境下で自らの考えを根拠をもって記述させることなどが考えられる。

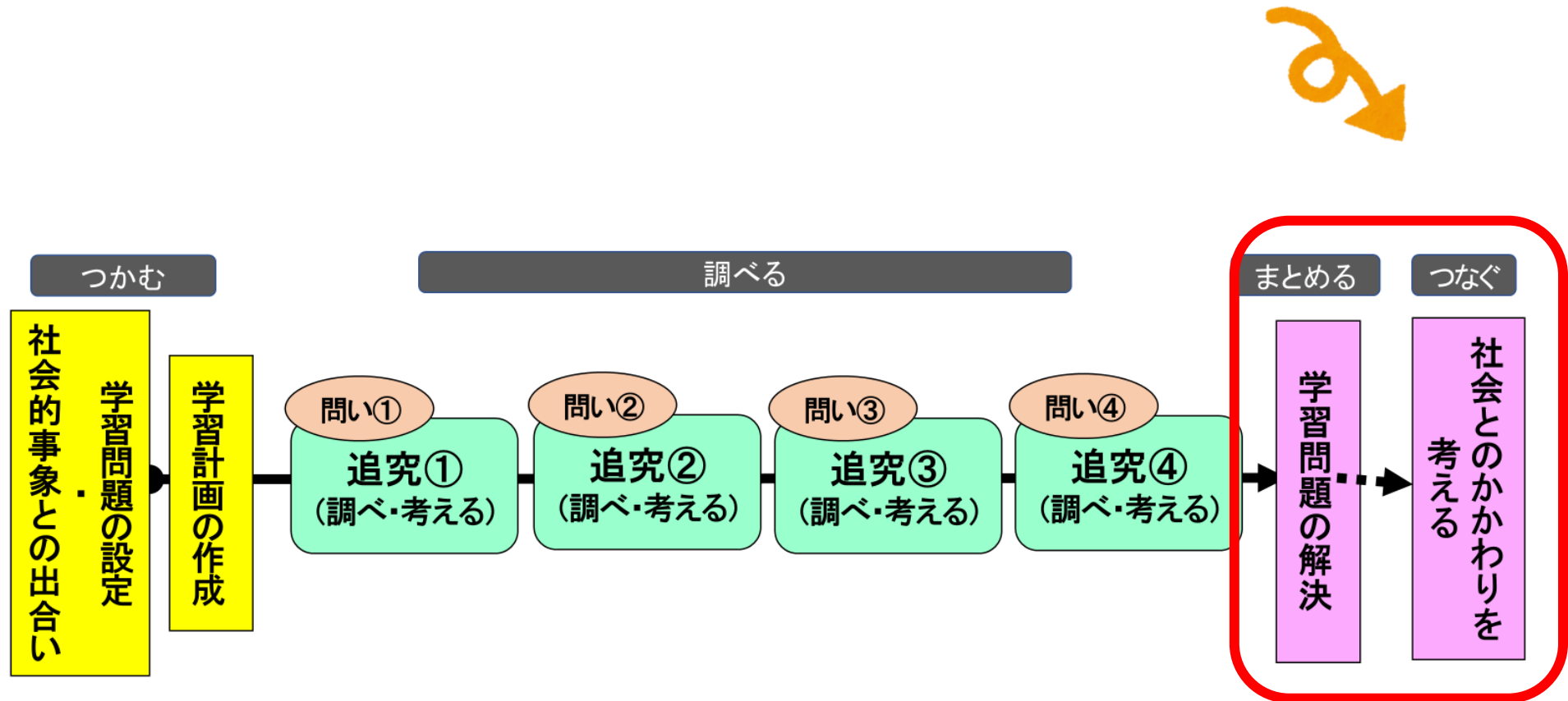


三角ロジックから考えてみる「社会科における子供たちの思考・対話」



- 他者との「対話」は言語を用いて思考を外化することを可能にします。
- 社会科においては、事実に基づく思考の妥当性を高めていきます。
- 学級で・友達と・学ぶこと・の良さを考えたとき、タブレットから離れ、
思考を深めていく場面をダイナミックに創り出していく
ことも大切。。。

(3) 各時間のまとめ、単元のまとめの授業を作る



問題解決的な学習過程における「単元のまとめ」の意義

学習問題の解決を図ること

- ・ 追究段階で調べ考えまとめてきたノートや作品を振り返り、吟味・修正を加えること。
- ・ 学習問題に立ち返って、解決を図るための話し合い活動を行い、自分の考えをノートや作品などにまとめること。

自己の学びを振り返ること

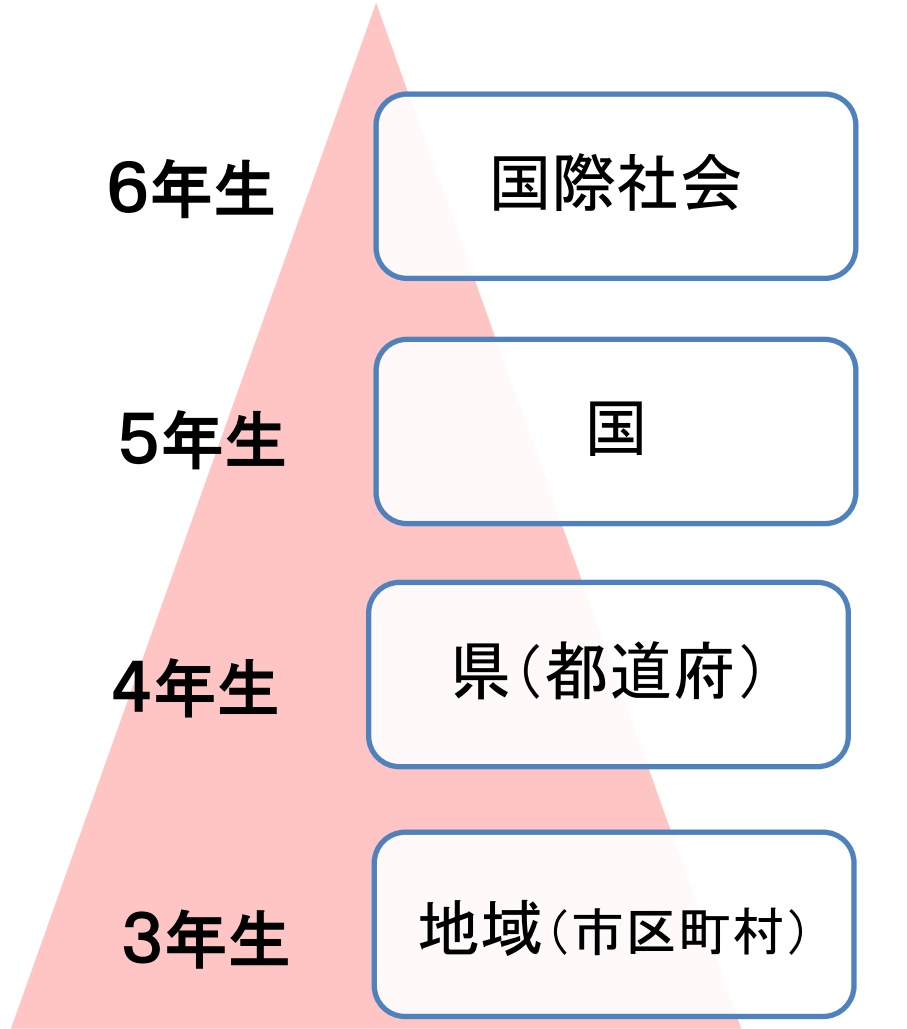
- ・ 学習内容に対する振り返りとともに、自分はどのように問題解決を進めてきたかという学び方について振り返ること。

社会との接点を見つめ、生かしたりつないだりすること

学習問題の解決を図ったうえで、改めて、社会の現実に目を向け、

- ・ 課題を捉え、学んだことの中から協力できることを選んだり、考えを決めるなど判断したりすること。
- ・ 獲得した見方・考え方を生かし、他の事例について調べたり考えたりすること。

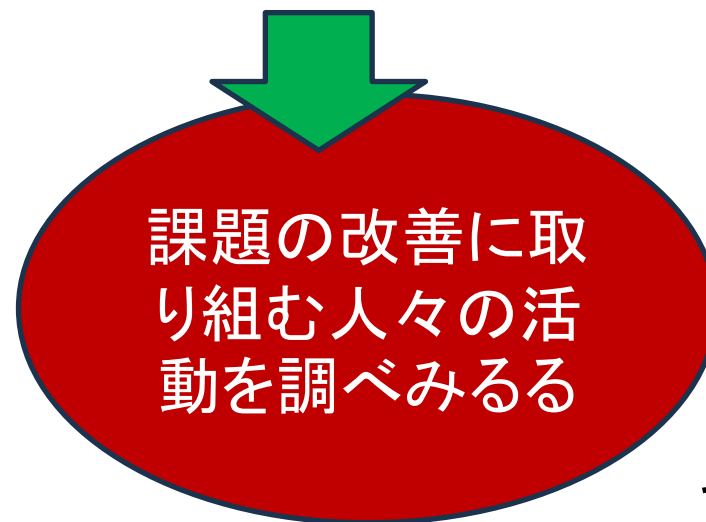
単元終末の「つなぐ」という段階で
社会に見られる課題について考え、選択判断すること



社会科における学習対象の広がり



小学生の発達段階や経験を考えると、安易に、社会の課題の解決策などを求めるのは無理がある



新たな取り組みの意義、
それに対する自分の考えなど

まとめの活動

各時間のまとめも重要です

□「本時の問い」の追究・解決を
基に理解したことの整理・文
脈化を通して概念化を図る。

□「調べ・考える」段階で、十分に「事
実・事象」に基づく「意味や特色」な
どを思考し表現しておくことが必要

「各時間のまとめ」も、「単元のまとめ」も、「つまりそういうことか！」
という理解が大切。まとめの表現は概念化される。

文章や図などに整理していくことは効果的。ただし作品主義に陥らないようにする。

ノートやタブレット端末を活用し、調べたこと・考えたことをもとに、「学習のまとめ」ができるようにする

①本時の問い（めあて）

（②予想）

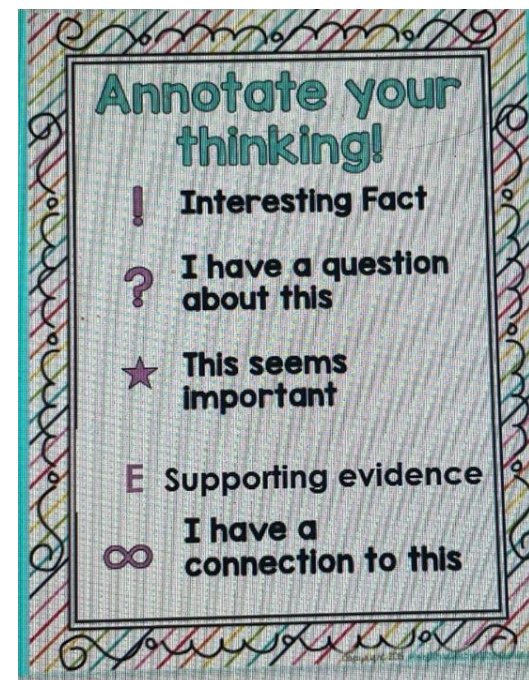
③調べて分かった事実
（資料を張り込むのもOK）

④調べたことをもとに考え
たこと、友達の考えなど

※友達に聞いたことなどはペン
の色を変えるのも有効

⑤学習のまとめ
本時の問いに対する考え
と振り返り

ノートのフォーマットの例

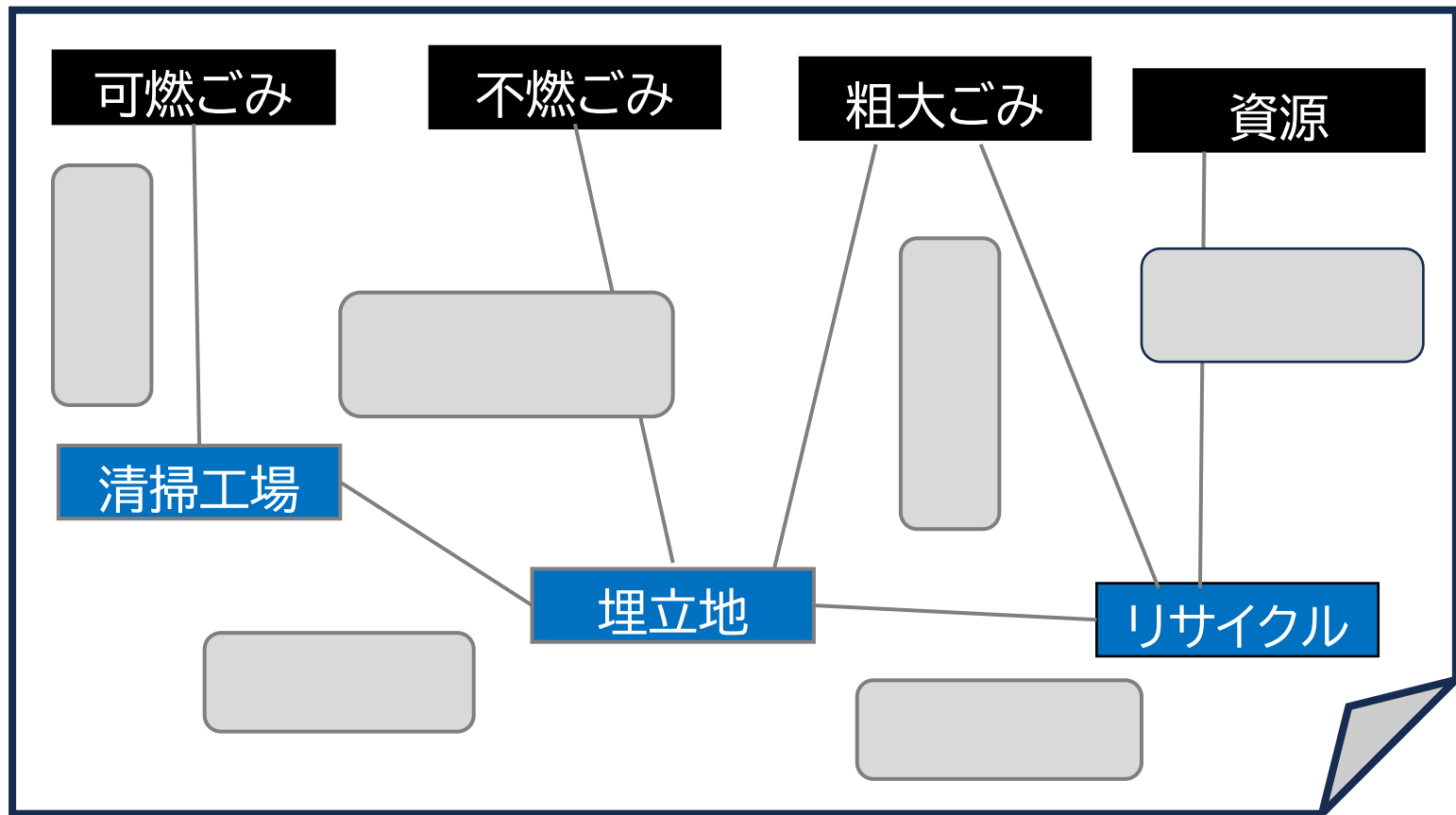


あなたの考えに注釈を付けて！

- ！ 興味深い事実
- ？ 疑問に思うこと
- ★ 重要だと思うこと
- E 裏付けとなる証拠
- ∞ つながりがあること

子供たちの得意技を増やしてあげる

例えば… コンセプトマップ(概念地図)からまとめの文章表現へ



□には、特色、意味、関連などを短文で書けるようにする。
単元のまとめの段階では、□を活用して、文章にまとめる。

必須ワードを共通にし、「線で結ぶ」「線上に意味や関係、疑問等を書く」とすると、関係性や意味が見えやすくなります。1時間ですべてを作るのではなく、学習が進むにしたがってマップが拡大していきます。

2. 社会科のこれから



次期**学**習指導要領に向けた基本的な考え方

「主体的・対話的で深い学び」の実装

第1の方向性

多様性の包摂

第1の方向性と両立させること
が不可欠な第2の方向性

実現可能性の確保

第1・第2の方向性の両立を支え、実行可
能とする観点としての欠な第2の方向性

教室のなかは... 小学校35人学級の多様性

■ 特異な才能のある子供	<u>0.8人(2.3%)</u>
■ 発達障害の可能性のある子供	<u>3.6人(10.4%)</u>
■ 不登校	<u>0.8人(2.3%)</u>
■ 不登校傾向	<u>4.1人(11.8%)</u>
■ 家にある本の冊数が少なく 学力の低い傾向がみられる子供	<u>12.8人(36.5%)</u>
■ 日本語を家であまり話さない子供	<u>0.5人 (1.5%)</u>

授業内容が自分にとって適切と感じているのは約5割？

とても当てはまる・少し当てはまると回答した児童生徒の割合

	小学生 (%)			中学生 (%)		
	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
授業の内容が 簡単すぎると思う	27.3	21.1	21.1	9.8	10.4	13.1
授業の内容が 難しすぎると思う	28.2	29.4	21.9	35.2	36.2	26.8

3割の子供は、授業の進み方がマッチしていないと感じている

とても当てはまる・少し当てはまると回答した児童生徒の割合

	小学生 (%)			中学生 (%)		
	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
授業の進み方が はやすぎる と思う	16.6	15.8	12.7	24.8	23.4	16.6
授業の進み方が おそすぎる と思う	14.3	12.5	13.6	9.5	11.6	16.6

2022(令和4)年度 義務教育に関する意識に係る調査(文部科学省)より作成

<令和6年度調査>不登校児童生徒数

小学校137,704人、中学校216,266人、小中学校全体で**353,970人**(過去最多)

(1)「深い学び」の実装に向けた授業づくり

～社会科でどのように実現を目指すか～

Keywordは「**概念**」

、
「深い学び」の実装に向けた授業づくり

「統合的な理解」と「総合的な発揮」

、
次期学習指導要領は、「デジタル学習指導要領」として、多様な機能を持つ
スタイルに大きく変わることが示されています。

「深い学び」のイメージを教師が持てるように
内容項目ごとに**高次の資質・能力**を構成

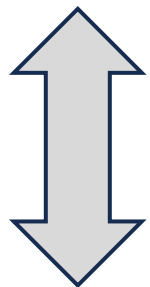
知識及び技能に関する
統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった状態

思考力、判断力、表現力等の
総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた状態

資質・能力の「深まり」の可視化



個別の知識や技能

資質・能力の「一体的育成」の可視化



個別の思考力、判断力、表現力等

資質・能力の「深まり」の可視化



「深い学び」のイメージを教師が持てるように
内容項目ごとに**高次の資質・能力**を構成

知識及び技能に関する
統合的な理解

社会的事象に関する個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる**概念**として習得された状態を示している。

思考力、判断力、表現力等の
総合的な発揮

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の社会的な**視点や方法等**を示している。

社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察することや、社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめることを示す。

小学校社会科では

	統合的な理解	総合的な発揮
3年生 地域の安全 を守る働き	警察署や消防署などの関係機関や地域の人々は、事故や火災に 連携して対処したり協力してその防止に努めたりしており、地域の 人々の安全を守るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、関係機関や地域の人々の活動と人々の生活とを関連付けるなどして、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
6年生 我が国の 政治の働き	我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基ついて行われており、国民主権の考え方の下、社会の変化に伴う様々な課題への取組を通じて国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、日本国憲法や政治の働きと国民生活とを関連付けるなどして、我が国の政治の働きについて様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。

つかむ

調べる

まとめる

つなぐ

社会的事象との出会い

学習問題の設定

学習計画の作成

問い①

追究①
(調べ・考える)

問い②

追究②
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)

問い④

追究④
(調べ・考える)

学習問題の解決

社会とのかかわりを
考える

調べて・考える社会科は、毎時間、個別の知識・技能を統合して、**概念**として理解している！

「統合的な理解」

個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる概念として習得する

「総合的な発揮」

社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察する。

「総合的な発揮」

社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめる。

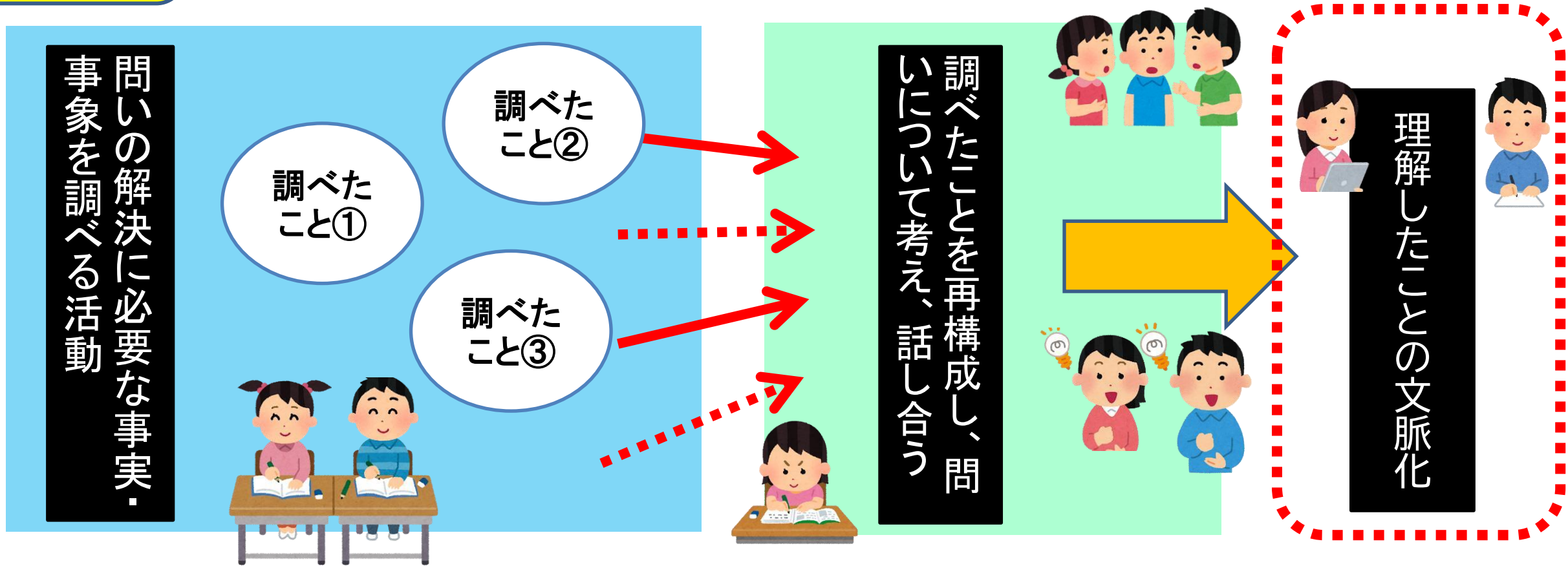
子供たちの1時間の学びのプロセス(例)

本時の問
いの把握
(=めあて)

調べる

考え話し合う

まとめる



個別の知識・技能

個別の思考力・判断力・表現力等

→ 個別の概念(仮)

問題
計画
設定

江戸幕府が長く続いたことを調べ、疑問を基に、学習問題を立てる①

江戸幕府は政治が長く続くよう、どのようなとりくみをしたのだろうか。

学習問題に対する予想から学習計画を立てる②

江戸幕府の始まりや武家諸法度を調べ、家康が権力を強め、政治を始めたことを理解する③

身分制度について調べ、人々を支配する仕組みを整えたことを理解する④

大名配置や参勤交代を調べ、武士を従える仕組みを整えたことを理解する⑤

キリスト教禁止や貿易統制を調べ、封建体制維持や貿易利益占有の仕組みを整えたことを理解する⑥

④⑤⑥は問いの順序選択

まとめた年表をもとに学習問題について自分の考えをまとめる⑦⑧

問題
解決

・江戸幕府は、幕府と大名との主従関係を明確にしたり身分を明確にしたりするとともに、鎖国をして信仰による反乱を防いだり貿易の利益を独占したりして、政治が長く続くようにした。

導入(問いの把握)

江戸幕府は大名に対してどのような取り組みをしたのだろうか。

問い

追究(調べる)

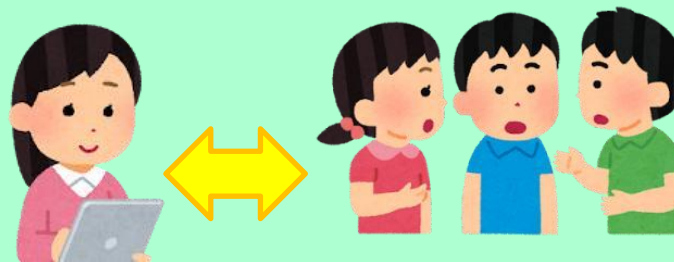
追究(考える)

まとめる

問いの解決に必要な事実・事象を調べる活動

- ・幕府は全国の支配者として大名に領地を与えとともに、配置を工夫した。
- ・参勤交代を武家諸法度に定めて幕府に奉公させるようにした。

問いの解決を目指した再構成の活動



一人で

友だちと
(対話)

概念的な知識

- ・江戸幕府は全国の支配者として大名の配置を管理したり参勤交代を制度化したりして、幕府の権力を高めるようにした。



個別の知識・技能

個別の思考力・判断力・表現力等

→ 個別の概念(仮)

導入(問いの把握)

学習問題について話し合い、考えをまとめよう。

問い

追究(調べる)

追究(考える)

まとめる

各時間のまとめ(個別の概念
(仮)を確かめる活動

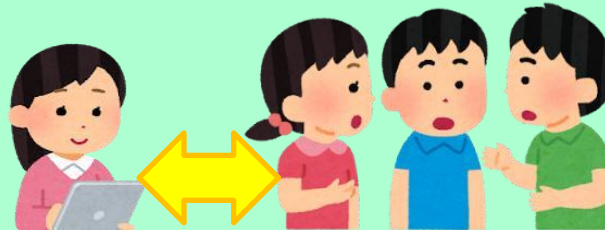
徳川家康は征夷大將軍となって江戸に幕府を開き、武家諸法度を定め、御恩と奉公の仕組みを利用して政治を始めた。

・江戸幕府は全国の支配者として大名の配置を管理したり参勤交代を制度化したりして、幕府の権力を高めるようにした。

・江戸幕府(や各地の大名)は武士や町人、百姓やその他の身分に応じて住む場所を定め、身分の仕組みを定着させた。

・江戸幕府はキリスト教を禁止して民衆の反乱とヨーロッパの侵略を防ぐとともに、貿易を制限して利益を独占した。

「学習問題」の解決を目指した再構成の活動



一人で

友だちと
(対話)

総合的な発揮

概念的な知識

江戸幕府は、幕府と大名との主従関係を明確にしたり身分を明確にしたりするとともに、鎖国をして信仰による反乱を防いだり貿易の利益を独占したりして、政治が長く続くようにした。

統合的な理解

(2)一人一人の児童が、「これならできる！」

と思える授業をつくる

～誰一人取り残さない教育を目指す～

子供にはそれぞれ事情がある

学ぶのは子供である / しかし子供にもそれぞれ事情はある

学習の目標・内容

- 学習のねらいに基づき、教材（資料）が提供され、そこから学習の問題（課題）を見出していく。
- 学習内容は、基本的には教師が決めている。
- 子供からすれば、「外部要因」



- 子供たちは、自己効力感や思考の具象性、モチベーション、好き・嫌い、情報処理能力などそれぞれ内部的・個別的要因を持つ。
- こうした要因は、それぞれの子供たちの学習のベースになっている。



どうしたら問題を解決できるか一緒に考えていきましょう。

苦手なんだけど、友達と一緒にやればできそうかなあ。



面白そうだけど、よくわからないな。

学習
問題

武士の館やくらしの様子を基に、疑問を話し合い、学習問題をつくる①

武士の登場によって、貴族の世の中はどのように変わっていったのだろう。

追究

武士の勢力拡大の経緯を調べ、平氏が政治の実権を握ったことを理解する②

源氏と平氏の戦いを調べ、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを理解する③

幕府と御家人の関係や承久の乱について調べ、幕府の力が西国にまで及んだことを理解する④

元との戦いを調べ、幕府と武士の関係が崩れ、幕府の力が衰えたことを理解する⑤

問題
解決

調べたことを関係図に整理し、学習問題に対する考えをまとめる⑥

源平の戦いで勝った頼朝は、鎌倉に幕府を開き武士による政治を始め、御恩と奉公の関係で武士たちを従え、全国的に力を持った。その力は、元軍をも退けた。

学習
問題

武士の館やくらしの様子を基に、疑問を話し合い、学習問題をつくる①

武士の登場によって、貴族の世の中はどのように変わっていったのだろう。

追究



この学習問題は、
何を調べれば解決
するのだろうか？

＜参考になるもの＞

- ・既知や経験
- ・年表にある関連する出来事
- ・教科書など



平清盛や源頼朝のことを調べ
るべきね。
いくつかの大きな戦いがある
から、これも調べる必要がある。

教師が、子供たちの検討（予想）
をもとに、「問い」の形に整える。



問題
解決

主体的な問題解決を指向するなら、こうした場面は必須！

調べたことを●●●に整理し、学習問題に対する考えをまとめる⑥

学習
問題

武士の館やくらしの様子を基に、疑問を話し合い、学習問題をつくる①

武士の登場によって、貴族の世の中はどのように変わっていったのだろう。



小単元の学習問題を解決するために、
調べ・考える「具体の問い」(＝めあて)

追究

平氏による勢力の
拡大について調べ、
どのように武士に
よる政治が始まっ
たか考えよう。

源平の戦いを調べ
て、頼朝はどのよう
な政治を目指した
か考えよう

御恩と奉公につい
て調べ、頼朝はどの
ように武士を従え
ていったか考えよう。

元との戦いについ
て調べ、幕府の力と
その後の影響につ
いて考えよう。

問題
解決

人物が4人登場するので、それ
ぞれのアイデアで関係図にする



調べたことを●●●に整理し、学習問題に対する考えをまとめる⑥

(3) 学習過程の開発への期待

つかむ

調べる

まとめる

つなぐ

社会的事象との出会い

学習問題の設定

成

共通学習計画の作

問い①

追究①

(調べ・考える)

共通

③

問い②

追究②

(調べ・考える)

④

問い④

追究④

(調べ・考える)

④～⑥で、問いの順序

⑤

問い③

追究③

(調べ・考える)

⑥

学習問題の解決

社会とのかかわりを考える

①

②

⑦

⑧

問い④

追究④

(調べ・考える)

問い②

追究②

(調べ・考える)

問い①

追究①

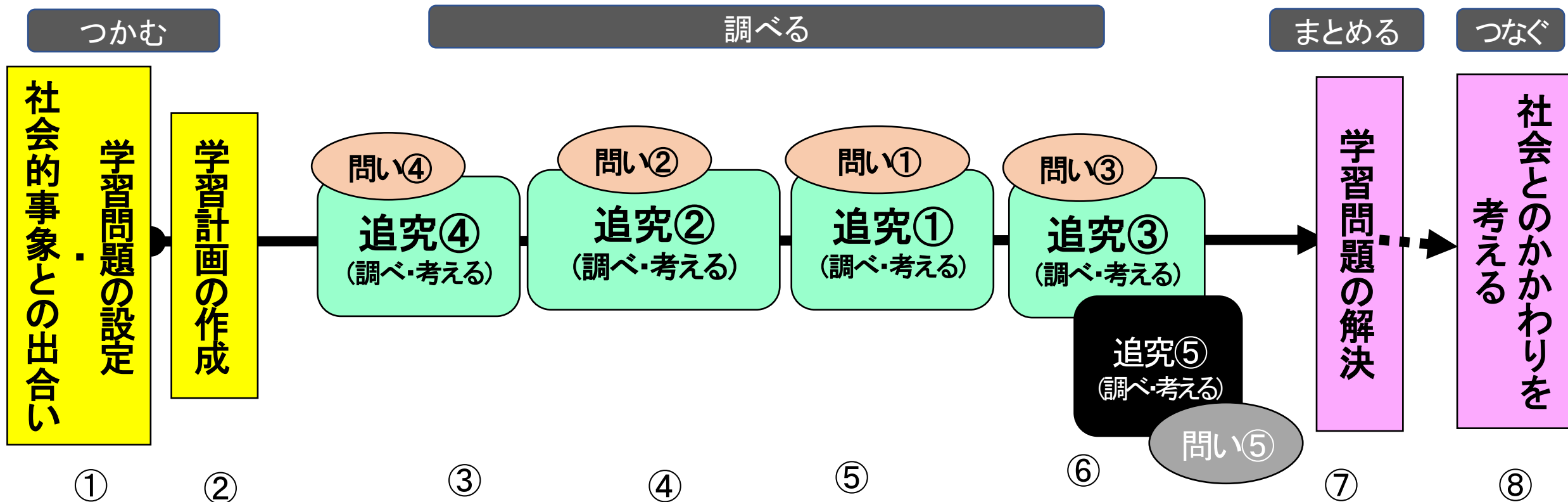
(調べ・考える)

問い③

追究③

(調べ・考える)

③～⑥で、問いの順序・時間を自分で調整ながら追究する



4時間かからずに、4つの問いについて調べ考える活動を終え、
新たな問い(問い⑤)を設定して追究する。

つかむ

調べる

まとめる

つなぐ



A児

問い①

追究①
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)

問い④

追究④
(調べ・考える)



B児

問い②

追究②
(調べ・考える)

問い④

追究④
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)



C児

問い①

追究①
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)

問い③

追究③
(調べ・考える)

問い④

追究④
(調べ・考える)



D児

問い①

追究① (調べ・考える)

問い④

追究④
(調べ・考える)

グループ内で、調べたことをシェアし、
3つの問いについて、考えを深める

学習問題の解決

社会とのかかわりを考える

社会的事象との出会い

学習計画の作成
学習問題の設定

①

②

グループ協働
の問題解決

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

先生とシンクロしない授業では、
先生は心配になる！

子供たちは楽しそうだけど、
本当にわかっているのかし
ら??

Bさんはすぐに2つ目
の問いに進んだけれ
ど、理解が浅くなって
ないかなあ…？

子供たちの力

「できたのルール」を「壁」にする

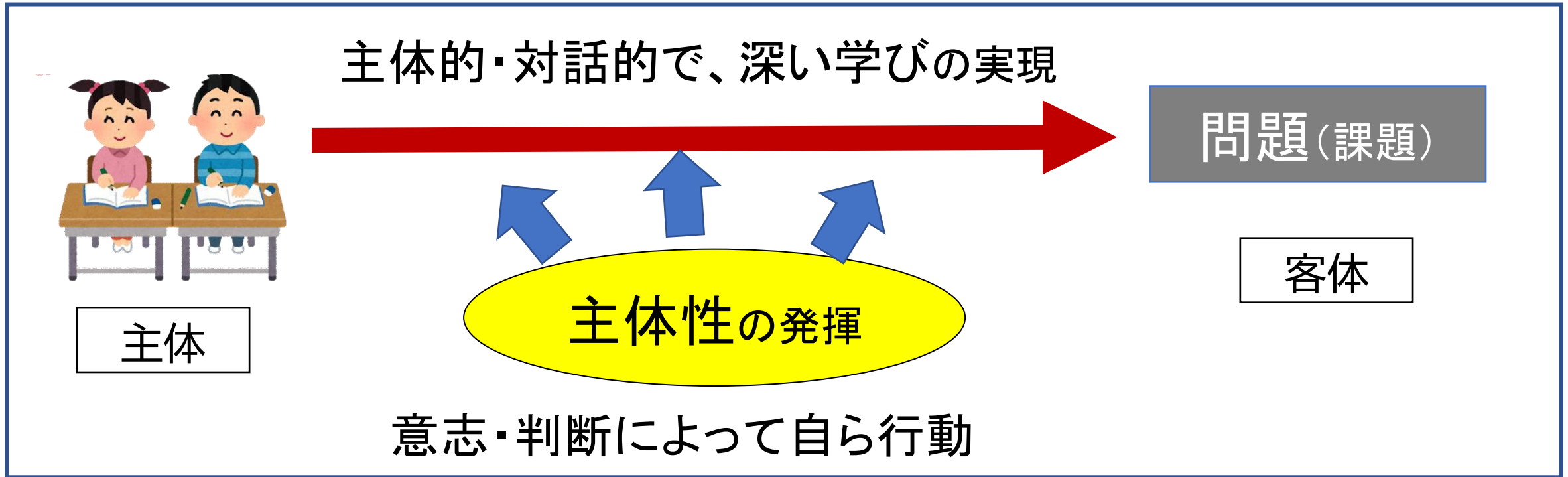
例えば、理解し、考えたことを、3人以上に
説明し、OKをもらったら次に進める。3人の
うちの一人は先生とする！など

問いの力

深い思考に誘う「問い」にする

単に、活動や作業を促す問いではなく、
活動や作業を基に考え話し合うことを促
す「問い」にする！

主体的に学ぶ子ども ～「主体的」であることの本质～



何を共通にして

テーマ、ねらい、学習内容、
全体の時間数…

何を子供たちにゆだねる

共同体(誰と)、空間の利用(どこで)、時間
の利用(何にどの程度、45分の使い方)、
学習方法(何を使って、個別・協働)、表
現・まとめの方法…

何を共通にして

テーマ、ねらい、学習内容、
全体の時間数…

何を子供たちにゆだねる

共同体（誰と）、空間の利用（どこで）、時間
の利用（何にどの程度、45分の使い方）、
学習方法（何を使って、個別・協働）、表
現・まとめの方法…



教育の専門家として、また子どもの学びの伴走者としての先生には、どんなマインドやスキルが必要？

(4) 学ぶのは子供である！

学習者としての子供の学びの力を育てる

「主体的・対話的で深い学び」の具体化・深化

そのために

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進める

学習者が自己調整しながら能動的に学びを進め、質の高い学習につなげる。

遂行段階

自己コントロール

課題方略、意思方略、自己教示、
イメージ化、時間管理、環境構成、
援助要請、興味喚起、自己報酬

自己観察

メタ認知的モニタリング
自己記録

予見段階

課題分析

目標設定
方略プランニング

自己動機づけ信念

自己効力感、結果期待、
課題への興味/価値
目標志向

メタ認知

学習方略

動機づけ

自己省察段階

自己評価

原因帰属

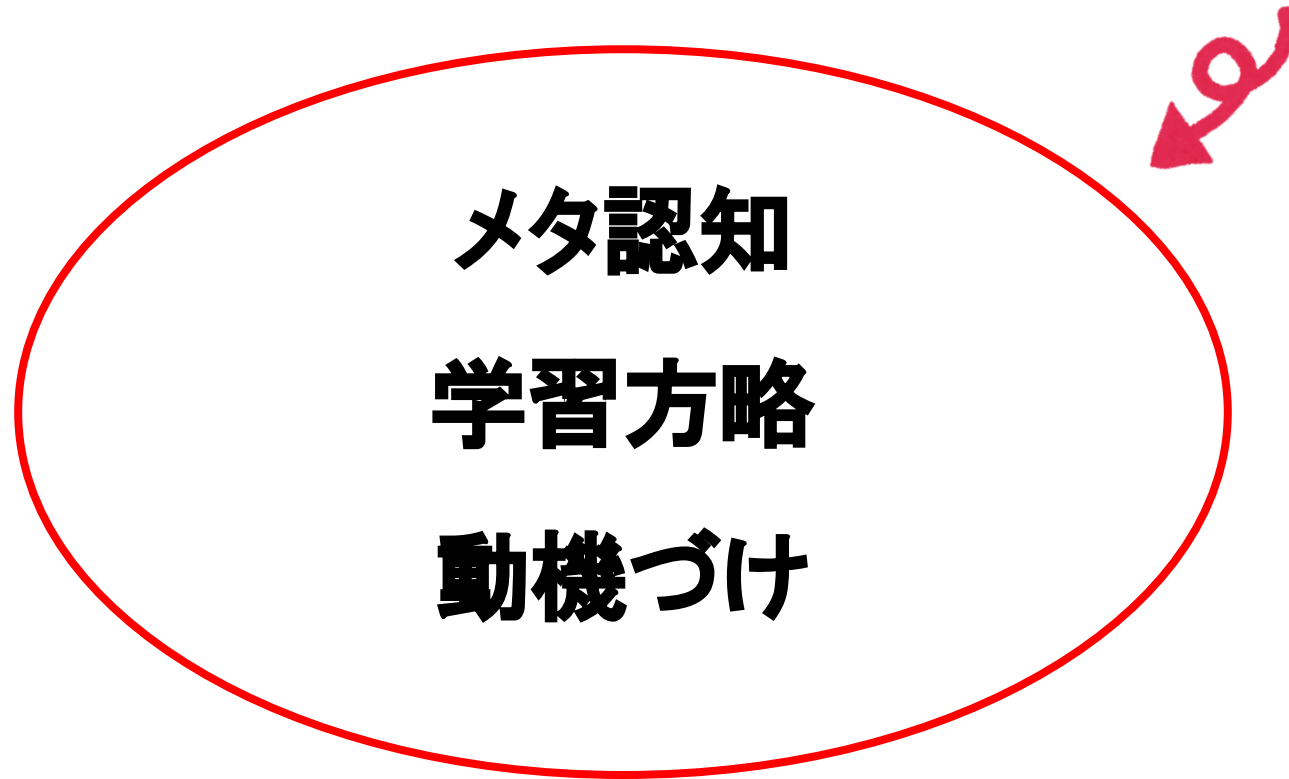
自己反省

自己充足/情動
適応的/防御的

自己調整学習のサイクルモデル

(Zimmerman & Scunk2011、瀬尾2014)

自己調整学習の効果をもめる方略



これらを一人ひとりが身につけていけることが自己調整学習には欠かせません！

使える方略を増やし、使える環境を提供する

- ・理解する・考える方略
- ・メタ的に捉える方略
- ・リソースを活用する方略

メタ認知 学習方略 動機づけ

自己の学びの過程や成果を
モニタリングし、コントロール
できるようにすること

自らの行動を通して変化を起こす
力が自分にはあるという気持ちを持たせる(→内容と方法を知る)



使える方略を増やし、使える環境を提供する

- ・理解する・考える方略
- ・メタ的に捉える方略
- ・リソースを活用する方略

学習方略とは「学習の効果を高めることを目指して意図的に行う心的操作、あるいは活動（辰野、1997）」

学習方略



学習方略の分類
(横尾2014)

認知的方略

- ・リハーサル
- ・精緻化
- ・体制化
- ・学習課題に応じた方略

メタ認知的方略

- ・理解モニタリング
- ・自己評価
- ・目標設定
- ・プランニング
- ・教訓機能
- ・自己説明

リソース活用方略

- ・注意集中方略
- ・情動・動機づけ調整
- ・学習環境の構成
- ・他者への援助要請
- ・学習情報の収集

教育の専門家・伴走者

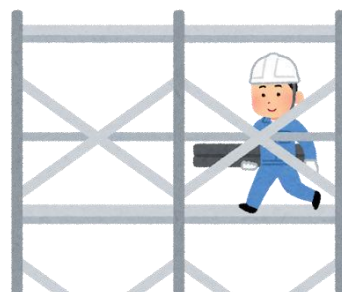


自ら学びのプロセスを
つくれる力を育てる

学習活動を工夫する

指導方法や指導体制を工夫する

ICTや教材・教具を活用する



調べる・考える・話し合う



動機づけ

学習方略

メタ認知能力

粘り強さ